

売れる米づくり技術情報 (No. 2)

～ なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい ～

平成20年3月 日
J A にいがた南蒲
三条農業普及指導センター
長岡農業普及指導センター

品質向上対策3本柱!

- ①適正籾数確保 (小で小さな稲づくり)
- ②後期栄養・水の確保 (粒張りの良い米づくり)
- ③土づくり (気象変動に強い稲づくり)

★ は種は4月20日頃! 田植えは5月10日頃!!

問題点・必要性 …… 4月上旬の播種では気象災害の危険が高い

- ・播種後の低温による育苗障害
- ・生育ステージが早期化し、高温下での登熟により品質が低下

4月20日頃播種に合わせた育苗作業が、売れる米づくりの第一歩です。
早すぎる作業は危険がいっぱいです。

4月5日頃消毒 ⇒ 4月7日頃浸種 ⇒ 4月20日頃播種 ⇒

※テクリードCフロアブルによる種子消毒の場合

5月10日頃田植 ⇒ 8月5日頃出穂 ⇒ 品質向上!!

1. 床土・覆土の準備 [稚苗一箱当たりの準備例]

床土	床土量	タチガレン粉剤	稚苗苗代配合	覆土	覆土量	ダコニール粉剤	カスミン粒剤 (細菌性病害対策)
	3リットル	6g	25~30g		1リットル	8g	20g

* 細菌性病害対策として、上表のカスミン粒剤の代わりに、カスミン液剤4倍液5.0mlを、は種後覆土前にかん注してもよい。

2. 種籾の準備から苗管理まで (作業日めやすは稚苗加温で5月10日田植えの場合)

塩水選

めやす 4/5~

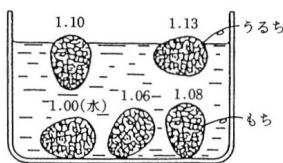
水洗い
水切り

充満した種もみを選び、発芽率を高めます。

	比重	水10リットルに溶かす食塩の量
うるち	1.13	1.9kg
もち	1.08	1.1kg

*比重計のない時は右図のように新産米を生卵を使いましょう。

塩水の濃度と生たまごの状態



ほか苗病、いもち病、ごま葉枯れ病、苗立枯細菌病を予防します。

【消毒方法】

薬剤名	消毒方法	薬剤量・処理の方法	注意事項
テクリードCフロアブル	塗抹	乾もみ1kg当たり 原液を5ml	・薬液量は、種もみ1kgに対して2~2.5リットル
	低濃度浸漬	200倍液に24時間浸漬 (水10リットルに原液50ml)	・消毒効果を安定させるため、消毒後は風通しの良い日陰で種もみを十分に風乾させる
	高濃度浸漬	20倍液に10分間浸漬 (水10リットルに原液500ml)	・低濃度浸漬の薬液は、反復使用しない ・廃液お河川等に流さないようにする

(注) エコホープDJについては、営農指導員にご相談ください。

発芽をそろえるために、種もみに水を十分に吸わせます。

水温	浸種期間	要点
10~15℃	積算温度で100℃	・消毒効果を高めるために前半4日間は水を入れ替えず、その後1~2回水を入れ替える ・ときどき種もみの上下を交換する

浸種

めやす 4/7~

芽出し
めやす 4/18~

加温により発芽をそろえます。

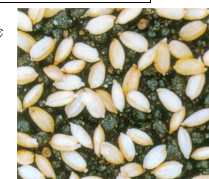
温度	注意事項
30℃	・ハト胸状態まで行います。(発芽がそろったら終了) ・催芽時の高温は細菌性病害の発病を助長するので注意する ・ハト胸催芽機へのカスミン液剤の加用は厳禁(耐性菌の発生を助長する恐れがある)

は種
めやす 4/20~

健苗育成のために薄まきしましょう。

140gイメージ

稚苗	一箱当たりのは種量 (g)		10a当たり必要箱数のめやす (箱)
	乾もみ	催芽もみ	
	130~140	155~165	17~20



出芽期以降の技術対策等については、次号 (No. 3) でご確認をお願い致します。

★営農情報が届きます!

★携帯電話に!

メール機能がついている携帯電話なら登録をすることにより、緊急情報などが携帯電話を通してあなたのお手元に届けられます。

- ① 下のバーコードを読み取らせるか、アドレス (<http://ktai.at/ja-nankan/>) を直接入力して、「JA にいがた南蒲携帯サイト」に接続後、「マガジン登録」を選択。
- ② 「そのまま送信」を選択して、メール画面になったらメール送信。
- ③ 送信後、返信メールが届きます。「ユーザー登録」の受信メールを確認し、受信メールの本文中から登録画面に接続します。
- ④ 郵便番号を入力して、「送信」を選択。引き続き、必要項目 (氏名のみでも可) を入力して「確認」を選択。内容確認後「登録」を選択して、完了。



←カメラモードなどのバーコードリーダーで読み取り

もしくは、インターネット画面から直接入力

<http://ktai.at/ja-nankan/>

★情報紙として!

発行NO	発行予定日	テーマ
3	4月7日	育苗後半の管理、移植(5/10 植え)
4	6月3日	中干し・溝切りの確実実施、カメムシ対策(草刈り)
5	7月1日	出穂予想、早生1回目穂肥、草刈り
6	7月10日	コシヒカリ出穂期予想、早生2回目穂肥
7	7月23日	水管理(飽水管理)、基幹防除
8	8月18日	出穂状況と収穫期予想と水管理対策、乾燥調製等
9	1月9日	次年産米品質向上へ向けて

※上記日程は、予定であり発行日等が移動することもありますので、ご了承のほどをお願いいたします。
また、緊急時には号外等により情報を提供してまいります。